五條市よ!柿で復活! 澤井佑樹

僕は、奈良県五條市に住んでいます。五條市は、実は奈良県で2番目に面積の大きな市町村です。金剛山や吉野の山々に囲まれ、市の中心には和歌山県へと流れゆく吉野川があります。五條市はとても自然豊かで、そんな五條市が僕は大好きです。

自然が豊かなことで言うと、美しい星が見えて、奈良県で唯一の天文台があることもポイントです。星を観察したいときは是非五條市に来てください。天文台から見える星や、望遠鏡を通さなくても見ることのできる満天の星空に感動すること間違いなしです。

そして何と言っても、五條市と言えば「柿」です。奈良県の柿の生産量は、和歌山県に次ぐ第2位ですが、市町村別の「柿の生産量ランキング」では五條市が全国1位です。僕の曽祖父も柿農家をしていました。収穫の時期になると家族皆で手伝いをしていました。しかし、曽祖父が亡くなってからは後を継ぐ人もいないので、柿作りは家族が食べる分くらいしかしなくなってしまいました。これは柿農家をされているお家の多くが直面していることかもしれません。いわゆる後継者不足です。僕が感じているだけでも柿をされている農家さんの数は減っています。

なぜ、このような事態になっているのでしょうか。この問題は決して柿農家に限定したことではありません。今、五條市では高齢化や人口減少が著しく進んでいます。1995 年ごろ4万人を超える人口であったのが、2020 年にはついに3万人を割り込みました。

さらにこれからどうなるのでしょうか。五條市の未来を知るために、内閣府の地方創生推進室が提供している「RESAS」で僕はもう少し調べてみることにしました。すると 2030 年を過ぎてからは生産年齢人口よりも老年人口の方が多くなるということでした。さらに人口減少は進み続け 2045 年には約2万人になるという推測結果でした。この結果に僕はとても危機感を覚えました。

この現状に市として何もしていないわけではありません。例えば「吉野川祭り」は市内が最も活気づくイベントです。毎年8月 15 日には県内外問わず人が押し寄せ、7万5千人もの観光客が訪れます。川のほとりで行われる灯篭流しに僕は参加したことがありますが、川岸から流されるほのかな光が、空を彩る花火やレーザーと見事に調和して幻想的な景色となります。とても賑やかになる1日ですが、次の日からはいつもの五條市に戻ります。

そこで僕は考えました。一時的に盛り上がるのではなく、一定数五條市の人口を増やすにはどうすれば良いのだろう。そして、僕が提案するのは「柿農家を空き家で始めませんか」ということです。

昨今「農ガール」などの言葉も生まれるほど、若者の農業への関心は高まっています。しかし、「就農」となるととてもハードルが高くなります。それは、「果たして生活できるのか」と心配だからだと思います。そのために、まずは人口減少により増えている空き家を利用して、就農したい人のために住居の提供を行うのはどうでしょうか。そうすることで衣食住の柱である「住」が確保できます。そして、後継者不足で悩んでいる柿農家の方に協力いただき、そのノウハウを伝えてもらいます。そうすることで両者にとってメリットがあります。市にとっても生産年齢人口を増やす大きなチャンスになるのではないでしょうか。

僕は五條市の誇りである「柿」の文化をこれからも守っていってほしいと思います。僕もできることをやっていこうと考えています。必ず曽祖父の柿を次の世代へと引き継ぎます。共に頑張ってみませんか。